

横浜市市民協働推進センター 2023年度事業計画





横浜市市民協働推進センターとは

- 設置：2020年4月
- 場所：横浜市市庁舎1階（2020年6月より）
- 運営：認定NPO法人市民セクターよこはま・横浜市市民局

私たち、横浜市市民協働推進センターは、横浜をより良くしたい市民の方々や、行政が重なり合う空間としてオープンしました。地域団体・NPO・企業・大学・行政など、組織の垣根を超えて、取り組みたい課題や、気になるテーマで繋がり、協働して、未来をつくっていくための空間です。地域の課題を解決するプロジェクトや、主体的な実践を一つ一つ積み重ねていく皆さんを応援し、コーディネートや伴走的な関わりを行うことで、横浜がもっと豊かに、暮らしやすいまちになることを目指します。



「市民協働の未来のために」 (2023年度テーマ)

- ・認知度強化と裾野拡大のための情報発信
- ・市民活動・市民協働を推進する若手の育成
- ・協働が生まれやすい環境の創造 (対話の場)
- ・協働 (サロン) 相談会の開催
- ・ネットワークの強化 (各区センターとの連携強化)
- ・全事業を連動させ協働を推進



6つの事業

総合相談 事業

- ・総合相談窓口
- ・市民協働相談会
- ・土業相談会など

情報蓄積 ・活用・ 発信事業

- ・ホームページ
- ・メルマガ、SNS
- ・情報誌など

交流促進 事業

- ・ミズベサロン
- ・市民協働HUB事業
- ・未来創発シンポジウム
など

人材育成 事業

- ・スタートアップ
プログラム
- ・コラボレーション
スペース
など

市民活動 支援事業

- ・NPO入門セミナー
- ・市民活動基礎セミナー
- ・市民活動フェスなど

各区の 市民活動支援 センター 支援事業

- ・ネットワーク会議
- ・個別サポート
- ・協働に関する情報・
ノウハウ共有など

「参加・相談・協働する」 総合相談事業

総合相談
事業

1 - 1. 協働のための総合相談窓口

様々な主体との協働について相談・提案を受け付けるワンストップ窓口。市民活動や市民協働に関する様々な相談に対して、HPの相談フォームを主な入口として、相談内容を推進課と共有し、定例的な会議を通して検討・対応する。また、センター開催のセミナーや相談会などにつなげる。

1 - 2. 市民協働相談会

協働に関わる団体のエンパワメントや伴走型支援のために、各々のテーマや組織の属性に応じて、協働の実践者である協働コーディネーターが相談に乗る。また、交流会を含め、人材発掘や協働のヒントを共に考える場を持つ。相談会の企画段階で協働コーディネーターと一緒に企画し、協働コーディネーター同士のネットワークも強化する。（年5回）

1 - 3. 士業相談会

市民協働を推進するために、NPOが組織運営に必要な税理士・社労士との相談を相談会として開催することで、組織内の課題解決に対応する。また、参加団体同士でつながるように会場でのファシリを行う。（年4回）

「知る」 情報活用事業



情報発信

2 - 1. 情報発信

機能や役割といった基本的な情報の発信、協働事業など協働事例紹介、センターのイベント情報を、ホームページやSNS、メルマガ、印刷物といった広報媒体の活用や、公開型イベントの開催などを通じて広く周知し、市民等に提供する。

2 - 2. 情報誌発行

センター事業の広報、実施内容、センターで相談を行ったり、セミナーなどに参加してきた団体の活動紹介、市民活動・市民協働相談会の様子などを参加者のインタビューと共に掲載する。公式サイトと連携。

2 - 3. 協働人材バンク（協働人材のプロフィールと活動内容をホームページに公開する）

市内の中間支援組織やNPO等で活動している協働コーディネーターの一覧を協働の人材バンクとして、センターのホームページでプロフィールと活動内容などを公開する。

「学ぶ」 人材育成事業



3 - 1. スタートアッププログラム

①意欲ある市民対象：市民活動に関わりたい意欲的な若い世代（企業や行政職員を含む）を念頭においた人材育成プログラムである。市民協働、NPO論、公共哲学などの市民活動や市民協働を実施する際に拠り所となる知識を共有する座学と、実践に基づく具体的な課題解決ソリューションや、個々人の関心やモチベーションを共有する。（年4回）

②大学生対象：地域に関わりたい学生を募集して、地域プロジェクトを中心にインターンシップを実施するプログラムである。初年度はセンターで運営し、次年度以降は、各大学との共催など持続性を重視したプログラムへと進化させる。オリエンテーションも行った上で様々な主体が参加できる環境を整備することで、地域全体が学生教育の現場であり、支えることを実現する。（年2回）

3 - 2. コラボレーション@スペース

協働の創発への示唆となる他分野や周辺領域のゲストトークを開催。会場では参加者同士の意見交換や交流も促進する。参加者の熟議の場でもあり、意見発表も可能な場とする。

「学ぶ」市民活動支援事業



市民活動
支援事業

5-1. 市民活動（NPO）入門セミナー

NPO法人設立に関心がある、または設立を具体的に検討・準備している団体・個人を対象にNPO入門セミナーを実施する。ここになるべく各区支援センター職員にも参加してもらいノウハウを提供し、機能強化を図る。

5-2. 市民活動基礎セミナー

既存の市民活動団体や市民協働を実践しているNPOなどを対象に、人材育成としてスキルアッププログラムを実施する。経営、会計、ICT支援等を連続セミナーで実施する。3つの基礎的な科目を受講でき、安定的にNPOの運営ができることを支援する。

5-3. 市民活動フェス

市内の市民活動団体が、活動する分野の垣根を越えて、相互に連携・協働しながらその活動を広く社会に発信するイベント。（北仲フェスが開催される場合はコラボレーションを検討する）

「つながる・協働する」 交流促進事業



交流促進
事業

4 - 1. ミズベサロン

協働に意識のある市民が顔を合わせて、自分の考えを共有し、参加者同士がゆるくつながる場である。対象は社会課題の解決に関わりたいという考えを持つ初心者からベテランまで各会のテーマにより設定する。

4 - 2. 市民協働HUB事業

「様々な主体がつながる」ためのハブ機能として、センターが市内外の様々なステークホルダーと連携するプラットフォームを整備する。2023年度は、大学と企業との連携を始める。大学の「地域連携部門」と企業の「CSR・SDGs関係部門」との連携で、総合相談などへのチャンネルを増やす。

4 - 3. 未来創発シンポジウム

議論と学びの場（シンポジウム）と活動団体のアピールの場（ブース出展）を組み合わせ、アトリウムとスペースABで実施する。

「協働する」 各区の市民活動支援センター支援事業

6 - 1. ネットワーク会議（年3～4回程度）

各区支援センター間の情報共有・職員同士の交流を目的に、市民局と協働で年3～4回程度実施する。各区の事業共有や共通の課題発掘をテーマとして、互いの情報共有・意見交換をメインとする。

6 - 2. ヒアリングと日常サポート

運営状況や実施事業などをヒアリングし、各区の支援センターの実情に合わせた伴走支援を行う。日常的には、NPO等の団体支援・協働に関する相談へのサポートと情報提供を行う。

6 - 3. 協働事業に関する情報・ノウハウ共有

市民協働推進センターが実施する協働事業に区センター職員が参加する場を設ける。各区の支援センターが情報や経験、ノウハウを共有し蓄積することで、各区での協働ネットワークの拡大を促す。



協働とは、**信頼関係**をもとに、
共通の目的である社会・地域課題の解決に向けて、
様々なセクターがお互いの強みを出し合い、
役割分担を明確にし、
時に**弱みも補完**し合う中で、
協力し合うものと考えています。

これからも協働の輪を広げていきます。